

なのはな級 外国語学習実践

○学年の取り組み

① 学習パターンの明確化

【Greeting】→【Let's sing】→【Challenge】→【Story time】→【Reflection】という流れで、毎時間の活動を構成するようにした。各活動をホワイトボードに掲示し、今、どの活動に取り組んでいるのかが分かるように矢印で示すようにした。低学年の児童も毎時間の流れを理解することで、安心して楽しむことができていた。また、児童が自分で【END】と書きに来ることもあり、見通しをもって取り組む姿が見られた。

② 手遊びや歌を取り入れた活動

低学年が楽しんで外国語活動に参加できるようにするため、毎日の朝の会で慣れ親しんでいる手遊びや歌の外国語バージョンを積極的に取り入れるようにした。日本語で知っている内容であるため、英語バージョンでも歌詞や動きを理解しやすく、抵抗感なく取り組むことができた。授業外の時間にも自分から GIGA 端末で歌を聞いたり、自宅で歌ったりと、外国語に楽しみながら慣れ親しむ様子が見られた。また、手遊びや歌に関してはゲーム性が高く、低学年のみならず、中学年や高学年の児童も楽しんで参加することができた。

③ 異学年の関わり

なのはな級での外国語活動のような小集団学習では、異学年の児童が共に活動している。そこで、交流級で外国語を履修している高学年の児童に対しては、主にコミュニケーションの項目（相手の気持ちを考えて関わったり、自分の気持ちを伝えたりすること）を中心とした自立活動としての外国語活動をねらっている。低学年とチームを組み、協力しながら行うゲームや、簡単な言語材料を使ったクイズ、歌などを通して、友だちとの関わり方や、自分の気持ちや考えが相手に伝わる楽しさを感じることができた。

④ GIGA 端末の利用

GIGA 端末を利用して、各児童がスライドを使って学習できるようにした。低学年については、朝の会で使っているスライドを共有したことで、興味のある児童は自分でスライドを開いて外国語の手遊びや歌に触れていた。

中・高学年については、教師が作ったクイズのスライドを真似して自分で問題を作る活動を取り入れることによって、何問も問題を作り、発表の練習をするなど、自分で作ったクイズをみんなに見てもらいたいという意欲につながった。

○子どもの姿（成果と課題）

学習の目的として設定した「フルーツパーティー」では、児童が、学習してきたフルーツの名前を積極的に使ってコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。授業後の感想では、「授業でフルーツの名前を知ったので、それを使ってフルーツをもらうことができた。」という感想を述べる児童もいた。

児童が興味をもてる目的を設定することが学習意欲につながり、学んだことを生かせることが、新たな学習意欲を生むことが分かった。